

# 1. デジタルアーカイブサロンとは

- アート・ドキュメンテーション学会 (Japan Art Documentation Society/JADS) の会員およびJADSの活動をサポートする学生が月に1回集まり、お酒を飲み交わしながら、最新デジタルアーカイブについての技術やコンセプトの情報を交換しあう場所(作り手)です。
- 日本全国の博物館、美術館、図書館等に対して、最新技術と知見で、効率的に調査・調査結果を低価格によるデジタル化、またデジタルアーカイブ化に貢献するための相談窓口、受け皿となる。

## 2. 設立の経緯と目的①

2009年、JADSの20周年のとき、創設から10年はそれなりに貢献できたが、15周年から20周年にいたる過程でも貢献できていないことを思い、そろそろ動き始めるかと決意。システムインテグレーション、データベース、WEB技術に関心を持つ者がもっと力を発揮できる場所があるのではないか。まずは、そのようなことをきっかけに話し合える場を作ろうということで、飲み会をいこうと立ち上げる。「研究会」という名称にするが、それも「サロン」になるかを準備会で話し合い、「デジタルアーカイブサロン」という名称にすることを決定する。

## 2. 設立の経緯と目的② (2009年12月21日 設立準備会資料から)

目的	日本と諸外国のデジタルアーカイブをながめながら様々な技術的課題や特徴などを話し合いつつ、日常業務やビジネスの参考にする。
対象メンバー	JADSの会員を中心に、非会員でも可(今後の会員拡大のため)
形態	・毎月1回(第2〜第4火曜日?)年間6〜10回程度 ・午後6時から集まり、6時30分開始 ・午後8時に終了して、そのあとは適宜飲み会 ・午後10時解散
行動原則	・場所は当面フライングインターナショナル会議室(2階or5階) ・1回につき日本と諸外国のデジタルアーカイブを2つから3つ取り上げて、利用者および管理者の立場から分析した視点や感想、そこから見えてくる課題などを話し合い、その報告を通信に掲載していく。 ・まずは毎月1回の飲み会を楽しむにできるものにする。(楽しい飲み会、サロンを作る) ・疑問に思ったことはどんなに基本的、初歩的に思えそうなるもまずは聞いてみる。 ・そして、議論する。(案外が違ったり同じ言葉でも違う意味やニュアンスがあり、お互いにわかっていよう違う解釈をしていることはよくある) ・デジタルアーカイブを見る視点としては以下のように留意する ・利用者の視点を第1に考える。利用者の視点ほら以下にわかれる(研究者/一般利用者/キッズ(小学校高学年〜中学生、あるいは幼児)) ・管理者の視点を次に考える ・データ管理者(管理運営者)としての視点、合理性、効率性、安全性など ・制作者(伝えようとするもの)の視点 ・未来の仕事にできるか、お金を確保できるか、節約できるかなど視点を持つ ・「勉強会」というよりも、そこから何かを生み出すアットモラな溶解した集まりとし、そこから思いついたことや考えを行動や提案していく。 ・ただし、焦らず、まずは毎回戻りものをそのまま報告していく形を大切に。 ・面白いものを見つけたり、教えてもらったりしたらすぐに全員で共有化してみる。

## 3. どんなことをしてきたか (大きく8つに分類できる。)

- ①日本と世界のデジタルアーカイブを見る ②海外の展覧は見学会と研究払い ③文化遺産オンラインへの注目→日本版ヨーロッパ(JAPANサーチ(仮)への関心)
- ④断続的なためのデータ標準化や高解像度DBの検討 ⑤東日本大震災を契機に災害対策、防災対策、そして支援 ⑥図書館、文書館の情報化とデジタルアーカイブ化
- ⑦LOD・オープンデータの活用は新たな地平を切り開くための方策の検討 ⑧その他

## 4. 特に注目してきたもの

- 2009年か2012年までは文化遺産オンラインに注目→日本版ヨーロッパ(JAPANサーチ(仮)) ④データ標準化や高解像度DBの検討は人気がある。
- 東日本大震災を契機に災害対策、防災対策 ⑤2013年以降、話題になることの多いLOD・オープンデータの活用はこれらからも注目
- 図書館、文書館の情報化とデジタルアーカイブ化はこれからの課題(課題の整理が必要) ⑧各種デジタルアーカイブのお話(アニメーション、ゲーム、スポーツ写真など)

## 5. 今後どのように展開していくのか

- 会員、非会員を問わず気軽に集える空間と場の提供
  - ・JADSの会員を埋やすことに努める
  - ・新たなテーマをこころから生み出し、各人が持ち帰り花開かせる
- 全国の博物館、美術館、図書館の情報化とデジタルアーカイブの作成と連携をサポート
  - ・ジャパンサーチの登録の普及とサポート(つなぎ役として)
  - ・JAPANサーチとの連携、運動
  - ・LODもしくはPDFによるデジタル化事業の仲介や情報交換
- 東日本大震災・熊本地震等2019年の震災以後の変化を追い続け、記録、報告し続ける
- 図書館、文書館の情報化とデジタルアーカイブ化に関して課題を整理する。今後、学校図書館、公共図書館の融合も視野に入れ、法の改正と連携、コンセプトや概念の検討を行っている

# アート・ドキュメンテーション学会 Japan Art Documentation Society/JADS のご紹介

■概要  
アート・ドキュメンテーション学会は、ひろく芸術一般に関する資料を記録・管理・情報化する方法論の研究と、その実践的運用の追究に携わっています。1989年4月に、美術館/博物館、図書館、アーカイブ、芸術関連機関の新しい連携をめざし、わが国および国際間における文化的感性と芸術関連情報の新発的な感性のために開設されました。飛躍的に発展しています。芸術関連のドキュメントのさまざまな出来事や資料を記録・共有する作業は社会生活の根本をなす人間の営みですが、その理念や技術は現代の情報社会で急速に変容し、飛躍的に発展しています。持つべき可能性は、研究・教育機関のみならず、地域のコミュニティや個人的な活動でも開かれつつあるに等しいです。

本学会には、図書館司書、学芸員、アーカイブリスト、情報科学研究者、美術史・文学史・音楽史・メディア史・文化史・自然史研究者など、約350名の正会員、学生会員、賛助会員が所属しています。従来の美術館・博物館・図書館・公文書館・アーカイブおよび学会といった機関や職能を超越領域に融合する新しい学際団体として、本学会は、新しい未知な課題に取り組みむ方々の参加を促して、活動を展開しています。

本学会は、アート・ドキュメンテーション研究会として創設され、1999年に日本学術会議の第18期登録学術研究団体(情報学・芸術学)に加入後、2005年4月に現在の学会名に改称しました。その後、伝統ある英国図書館協会(ARLIS UK & Ireland)のArt Libraries Journal(2013, Vol.38, No.2)の「日本のアート・ドキュメンテーション」特号の刊行に協力するなど、国際的視野にもとじて現代社会の要請する人文と情報学との連携を追究しています。

主たる定例的活動として、年次大会、秋季研究会、学会誌「アート・ドキュメンテーション研究」と会員ニュース誌「アート・ドキュメンテーション通信」の発行、および「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の作成、維持(1995年2月に「美術・文書館関係機関展覧会」の開催)と、また多岐にわたる応用問題の解決に取り組み、着実な成果をあげています。

- 活動内容
- ・研究会、講演会、見学会の開催。
  - ・地区部会の活動。現在、関西地区部会があります。
  - ・スペシャル・イベント・グループ(SIG)。日常活動の場として、会員の興味に応じてSIGを結成することができます。現在、「美術図書館展覧会」「デジタルアーカイブサロン」の2つのSIGがあります。
  - ・スタッフ・ボランティア・グループ(SIG)。日常活動の場として、会員の興味に応じてSIGを結成することができます。現在、「美術図書館展覧会」「デジタルアーカイブサロン」の2つのSIGがあります。
  - ・美術情報の教育研究。情報資料の収集、交換、提供。
  - ・アート・ドキュメンテーション関係者の交流。会員専用メーリングリストで自由に意見を交換できます。
  - ・WWWを通じての広域。
  - ・季刊通信誌「アート・ドキュメンテーション通信」、年刊論文誌「アート・ドキュメンテーション研究」の発行。
  - ・「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の開催、及び「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の作成、維持(1995年2月に「美術・文書館関係機関展覧会」の開催)と、また多岐にわたる応用問題の解決に取り組み、着実な成果をあげています。
  - ・「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の開催、及び「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の作成、維持(1995年2月に「美術・文書館関係機関展覧会」の開催)と、また多岐にわたる応用問題の解決に取り組み、着実な成果をあげています。
  - ・「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の開催、及び「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の作成、維持(1995年2月に「美術・文書館関係機関展覧会」の開催)と、また多岐にわたる応用問題の解決に取り組み、着実な成果をあげています。
  - ・「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の開催、及び「アート・ドキュメンテーション関係機関展覧会」の作成、維持(1995年2月に「美術・文書館関係機関展覧会」の開催)と、また多岐にわたる応用問題の解決に取り組み、着実な成果をあげています。

- 会員種別・年会費【年度単位】
- ・正会員 6,000円(ただし、65歳以上は4,000円)
  - ・学生会員 4,000円(大学部、大学院等に在学中の学生：申込時に在学証明書または学生証のコピーを提出してください)
  - ・団体賛助会員 12,000円
  - ・賛助会員(個人または機関・団体) 一口以上 30,000円(一口)
  - ・名譽会員

- 会員特典
- ・通信誌「アート・ドキュメンテーション通信」及び論文誌「アート・ドキュメンテーション研究」の配布を受けられます。
  - ・シンポジウム、研究会、見学会など、本会が主催する事業に優先的に参加することができます。(団体賛助会員は除く)
  - ・専門分野に応じて、SIG(Special Interest Group)に参加することができます。
  - ・正会員、名譽会員は、総会における議決権が与えられます。

デジタルアーカイブサロンのご紹介